地域　担い手　サポ・センだより

JAグループ山形

# 地域ぐるみ 成果着々

## 担い手と園芸産地づくり

担い手づくりと園芸産地づくり。JAグループ山形地域・担い手サポートセンターが力を入れる二つの支援事業の2016年度実績がまとまった。いずれも生産者や行政などとの連携を視野に、地域ぐるみの支援が着々と成果を上げていることを示した。

担い手育成では、JAバンク基金活用のJAグループ新規就農応援事業による独立新規就農支援者は169人と、15年度の125人を大きく上回る見通しだ。新規就農研修を受け入れる支援先も16年度は15年度の17から19に増え、研修生は19人から34人に増加した。

地域で新規就農者を受け入れ、育てるJAグループ山形「地域で育てる担い手育成支援事業」では、17のJAや連合会、農業法人、研修受入協議会で「面」的な取り組みが進められた。公益財団法人・やまがた農業支援センターが14年度から展開している事業で、JAグループがこれに協調し、16年度から取り組み始めた。助成額は1000万円を超える。

一方、園芸産地づくりでは、JAグループ山形農業所得増大・地域活性化応援プログラムの一つとして16年度から3カ年計画で独自に始めた地域ぐるみによる支援事業が、野菜や果樹、花きの10品目で合計16の産地形成に活用された。販売金額は15年度より、総額で約4億円も押し上げた。

担い手づくりは地域農業の持続性確保の上で不可欠のテーマ。園芸産地づくりも、18年産からの米政策見直しを見据えた対応策として県内農業関係者が共有している課題だ。共通するキーワードは「地域ぐるみ」。「点」を超え、地域という「面」の視点から育てる二つの支援策を一体的に推進することで、地域と地域農業の活性化に大きく寄与する形が確かなものとして見えてきた。

地域で育てる担い手育成支援事業で、先進技術を身に付けた頼もしい担い手も育っている

©日本農業新聞　無断複製転載を禁じます。